

# 流通加工面にポイント

## ■城北の果樹

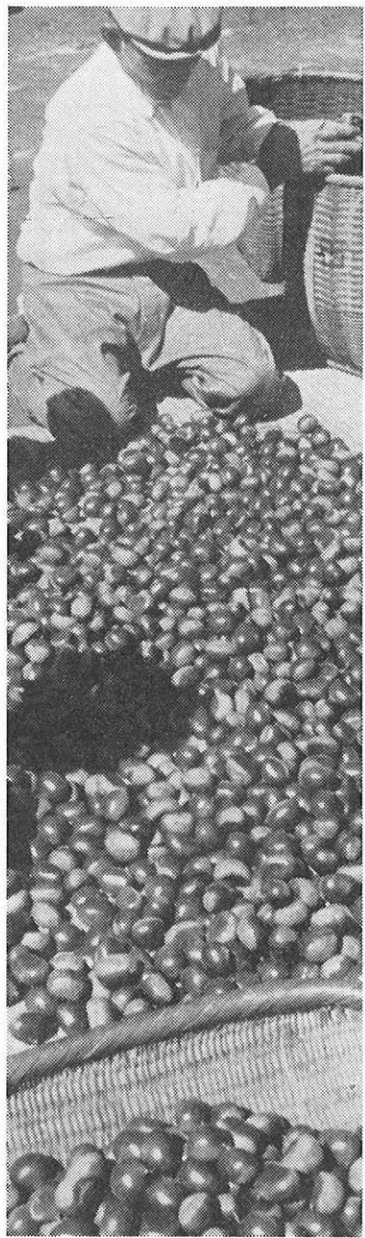
城北地区の果樹農業は、みかん、くりを中心急速な発展をみせているが、又、集団産地の造成、品質の向上など、今後に残された問題も多い。

城北の果樹生産の推移は(表一)に見られるとおり三十九年現在は三十五年対比で玉名一九七％、鹿本二〇二％、菊池五〇四％で、増植率では菊池が最も高く、又三十九年度の栽培面積では玉名二四五・八畝、鹿本九三・三畝、菊池六六九・六畝となっている。

### □玉名地方

この地方は、主産地の天水を中心とした、玉名、玉東、岱明、三加和の温州みかんが主体で栽培面積二、〇二〇・八畝、県下の主産地の一つで生産量は一万九、六四四・六トでその殆んどが天水で生産されている。

一方南関を中心として、くりの増植が



進んでいるが三十五年の栽培面積八一畝、生産量五六トが、三十九年度末には、面積二二二畝、生産量五六トと増加して中山間地帯の所得増大の一翼をにないつつある。

### □鹿本地方

この地方は、県下のみかん栽培地帯の最北端の内陸地帯で、昭和二十九年頃から気温の逆転層を利用したみかん栽培が計画的に導入増植された新興産地で、僅か一〇年余で非常な伸展を見ている。

鹿北、山鹿、鹿央、植木が主な栽培地で集団産地が形成され、三十五年みかんの栽培面積一七〇畝、生産量二五五トが、三十九年は、五一・二畝、生産量一、一七三トへと増加してきた。

くりは、中山間地帯の山間地を利用したくり栽培が導入され、鹿北、菊池、山鹿を中心に集団地が造成され一大産業化が推進されている。三十九年の栽培面積

二九六・六畝、生産量一六八・二トが生産されている。

### □菊池地方

この地方の果樹は、立地条件から見てくりの栽培適地が多く、最近菊池台地を中心とした畑地転換によるくりの増植が盛んである。なかでも、合志の畑地転換による集団くり園造成は著しいものがある。

### 三つの問題点

このように果樹産業は、近年非常に急速な伸展をとげたので、全般的に見た問題点も数多く生じている。その主なものは、

- 消費の増大と市場の大型化に対し産地がどのように対応していくか—集団産地造成の問題。

### これからの方向

●一〇畝当り収量は高いが市場においては外観品質等まだ上位でない。  
●生産の省力化、近代化をどのように進めるか。

敵正な適地選定に基づく果樹園の計画的な造成と経営の近代化をさらに進め、近代的大集団産地造成をめざして次のような方法により果樹農業の安定成長をはかっていく。

●経営規模の拡大と一〇畝当り収量の引上げ並びに省力化推進  
規模拡大をはかり、自立農家の育成を重点として取り上げ、技術水準を高め一〇畝当り収量平均四ト以上に引上げ、また、自家労力の効率を高めるため運搬用施設や防除施設の近代化及び品種構成の改善による収穫労力の分散などにより、労力の配分を合理化する。

### ●大集団産地造成の推進

大型選果場を単位とする広域の大集団産地造成を行ない、選果場のほか、集出荷用道路、貯蔵庫、加工施設、灌水施設、果樹園防除施設等の生産及び流通施設の整備をはかる。

### ●みかん品質向上推進

ますます激化を予想される産地間競争に耐え、これに打ち勝つためには、均質のみかんを最もうまい時期に出荷することができるよう各産地の発育ステージ、果実の酸及び糖度等について診断解明し、品質向上対策の一助として実施するとともに、摘果、施肥合理化、病虫害防除の徹底、適期収穫等の一連の品質向上対策を進めていく。

### 流通加工の問題点

かんきつの生果流通は、県下みかん共

販のトップをしめる、天水農協(二万二、三〇〇ト)を中心とし、地域選果場七カ所を、出荷拠点とし、六大消費市場をはじめ、県外市場に共販出荷されており、昭和四十年の実績は、約一万六、〇〇〇トで、果実生果共販数量の四四％をしめている。くりについては、共販体制の不備と、生産単位の小さいこと等から、その共販率はひどいが、しかし昭和四十年には、県下産地にさきかけて、大阪市場に初出荷を行ない、販売価格も、キロ当り三〇二円と、最高価格で取引され、その品質の良さで市場に期待される所が大きい。本年度から本格的出荷が、果実実連を中心として計画されている。この外、なしについても、一部東南アジアに輸出されている。

次に加工作業では、原料生産(みかん、くり、たけのこ)の豊富なことから、加工場の設置も進み、また、くりについても、加工原料の五〇％程度が、当地域および福岡県八女地区で消費されており、今後の消費用途からみて期待される。今後は

- (1) 果実実連を中心とした共販推進体制の強化
- (2) 消費市場の大型化に沿った広域産地体制を確立するための地域拠点として、大型選果場の設置による、選果経費の低減、品質の規格の統一をはかることとして、本年の農業構造改善事業のみかん選果場は、今後の選果場設置の指標となるものと思われる。
- (3) かんきつおよびくりともに、今後の加工消費率は二〇％程度の見通しであるが、この場合、これに対処するために、は工場の新設、施設の改善などに力を入



表一

果樹の栽培面積並びに生産量の推移 (単位 面積ヘクタール、生産量ト)

年度	地域名	早生温州		普通温州		その他		計		な し		ぶ ど う		く り		その他		計		合計	
		面積A	生産量B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
35年	玉名	292.0	3,194.0	503.0	11,733.0	35.0	527.0	830.0	15,454.0	144.0	2,516.0	71.0	321.0	81.0	56.0	121.0	473.0	417.0	3,566.0	1,247.0	18,820.0
	鹿本	59.0	114.0	105.0	133.0	6.0	8.0	170.0	255.0	5.0	28.0	57.0	203.0	114.0	148.0	113.0	829.0	259.0	1,208.0	459.0	1,463.0
	菊池	16.0	15.0	13.0	24.0	4.0	16.0	33.0	55.0	2.0	19.0	41.0	84.0	29.0	26.0	34.0	98.0	165.0	131.0	220.0	
39年	玉名	786.4	5,517.5	1,203.4	13,698.0	31.0	429.1	2,020.8	19,644.6	106.0	2,136.0	73.2	477.5	212.0	65.0	44.8	116.0	436.0	2,794.5	2,456.8	22,439.1
	鹿本	220.0	582.0	291.2	591.0	—	—	511.2	1,173.0	2.0	20.0	85.2	265.0	296.6	168.2	36.3	127.4	420.1	580.6	931.3	1,753.6
	菊池	35.1	71.2	87.5	111.7	2.0	—	124.6	182.9	1.0	15.4	63.0	284.1	425.9	55.9	55.1	16.0	545.0	361.4	669.6	544.3
	県	891.0	6,662.0	2,862.0	31,313.0	708.0	3,743.0	4,461.0	41,718.0	314.0	4,358.0	506.0	2,502.0	541.0	612.0	789.0	4,222.0	2,130.0	11,694.0	6,591.0	53,412.0